



# エコイベント開催マニュアル

～環境に配慮したイベントをめざして～

平成16年(2004年)3月策定

令和8年(2026年)4月改訂

函館市



# 1 はじめに

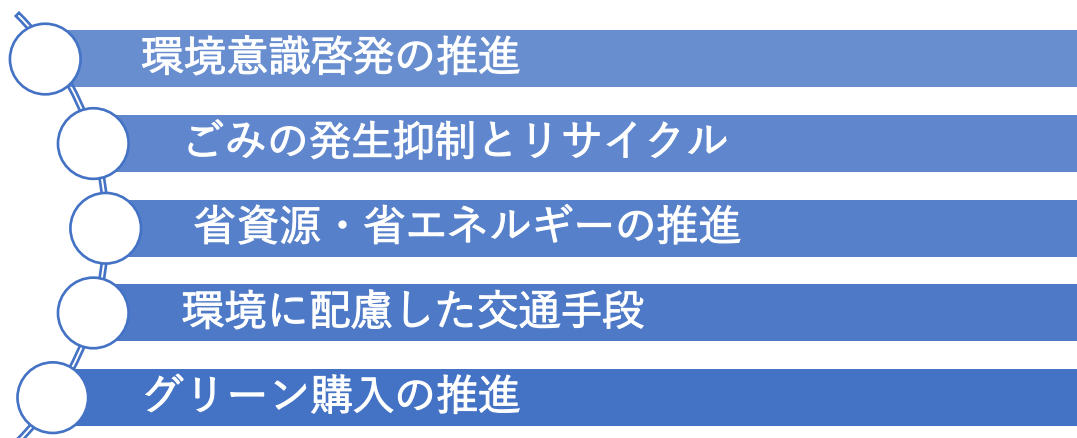
イベントの開催は、地域の活性化のほか、多くの市民や観光客を対象とした普及啓発、新たな商品やサービスのPRなど様々な効果がある一方、エネルギーや資源の消費、廃棄物の発生など、環境に負荷を与える要素を含んでおりますので、少しでも環境の配慮に取り組んでみてはいかがでしょうか。

本マニュアルを活用し、主催者をはじめ、参加者に対しても、ごみの発生抑制、省資源・省エネルギーを推進するなど、できるだけ環境に配慮したイベントを開催するとともに、ゼロカーボンシティはこだての実現を一緒にめざしていきましょう！



## 2 取組項目

イベントは、多量のごみの発生のほか、多くのエネルギーや資源を消費し、環境に大きな負担をかける要素は様々なものがありますが、本マニュアルでは、下記の5つの項目に取り組んでいきます。



## 3 実施手順・進行管理

環境を自ら継続的に改善するためのしくみである「環境マネジメントシステム」の考え方にに基づき、PDCA サイクルに沿って進めていきます。

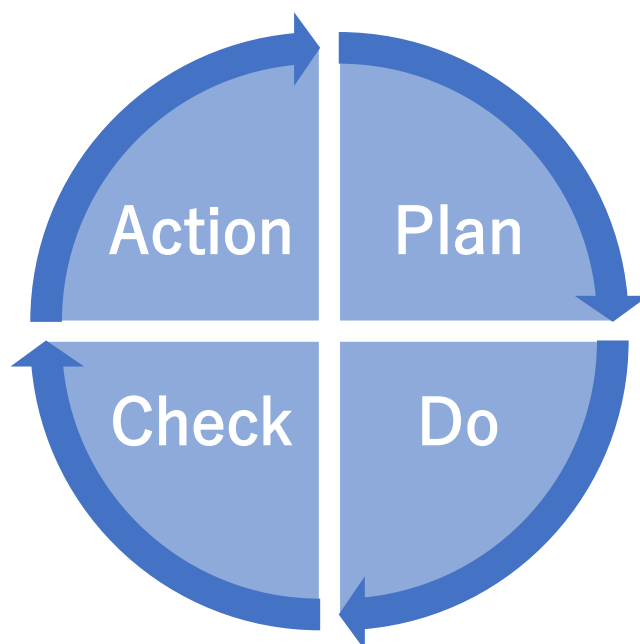
### エコイベントの開催に向けた PDCA サイクル

#### ④ 改善する

実施できなかった項目は、次回のイベントで改善していきましょう

#### ③ 点検する

チェックリストを活用し、計画どおりに実施できたか点検しましょう



#### ① 計画する

チェックリストを活用し、エコイベントの計画を立てましょう

#### ② 実施する

計画に沿って実施しましょう

## 4 取組内容

### 環境意識啓発の推進



環境に配慮したイベントの成功には、主催スタッフのみならず、出展（店）者や来場者も含めた関係者一同が環境意識をしっかりと持つことが必要であります。そのためには、事前のPRや開催中の広報等において、「なぜ環境配慮が必要か」といった目的意識を明確にした啓発が求められています。

#### 《「はこだて環境ラボ go with eco」ロゴマークについて》

はこだて  
環境ラボ | **go  
with eco**

「市民・事業者・市の全体で、環境の大切さを学び合い、環境にやさしい行動を選択し、共に実践していこう」という決意を込めています。事業者、団体、市民の皆さまも、お使いいただくことができます。詳しくはHPをご覧ください。

【ロゴマークについて詳しくはこちら↓】

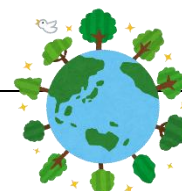
<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2025043000051/>



#### 《チェックポイント》

##### 1 事前に出展（店）者等に環境配慮への理解と協力を得る

○イベントの事前説明において、環境配慮の趣旨や内容を明確に伝え、実施のご理解とご協力を求めていきましょう。



##### 2 イベントの運営マニュアル等に環境配慮の内容を明確に示すとともに、関係者それぞれの環境配慮項目を具体的に決める

##### 3 チラシやポスター、場内放送等により参加者にごみの減量の取組等の環境に配慮したイベントであることを周知し、取組への理解と協力を呼びかける

##### 4 環境啓発ブースの設置や、啓発パネルの展示、学生ボランティアと連携を図る等、イベント開催を環境教育の場の一つとして位置づけ活用する

5 イベント後は会場周辺を清掃する

## ごみの発生抑制とリサイクル



イベントには多くの人が集まり、多量のごみが発生します。イベントの開催においては、ごみの発生を最小限にするとともに、やむを得ず発生したものについては、適正に処理しましょう。

《チェックポイント》

6 ホームページ、SNSの活用、チラシ等の両面印刷により、印刷物の枚数を精査する

7 事前にマイバック等の持参を呼びかける



8 使い捨て容器・包装材の使用を削減する

○リユースできるレンタル食器を取り入れる、できるだけ簡易包装にしましょう。

9 使用物品は繰り返し使えるものを使う

○新たに調達、作製するものは必要最小限にし、会場の設営や準備に伴う環境への負担を減らしましょう。

10 スタッフの食事は、使い捨て容器を使用していない仕出し弁当等にする

11 必要な分だけ食材を購入し、作りすぎに注意する



12 食材を無駄なく利用する

○野菜の皮なども工夫して利用しましょう。

**13** ハーフサイズ等の小盛メニューも提供する

○参加者が食事の量を調整できるようにしましょう。

**14** 食べ残した料理は持ち帰りができるようにする

○無料または有料で、希望者には持ち帰り容器を提供しましょう。



**15** 余った食材はフードバンク等に提供する



※フードバンクに食材を提供いただける場合は、  
フードバンク道南協議会（080-1897-8749 中森事務局長）へお問合せください。

**16** 来場者に食べ切りを呼びかける

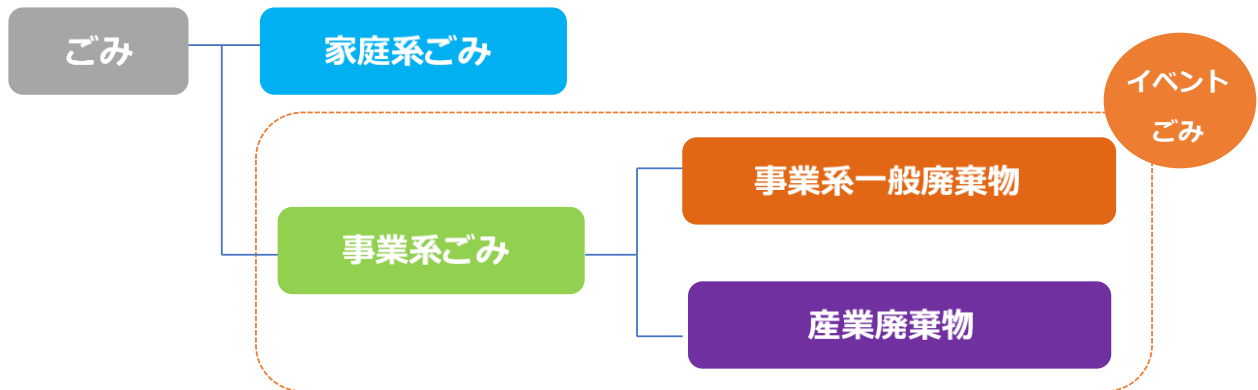
※上記の取り組みによっても、どうしても食品ロスが発生した場合には、

水切りによる減量化をしてみましょう。

## 17

発生するごみの種類やリサイクルすることを想定し、  
事前に収集運搬業者と相談のうえ、分別区分を決める

- イベントに伴って出たごみは、「事業系ごみ」となり、市では収集しないことから、分別し直接各施設に搬入するか、業者に収集・運搬の依頼をお願いいたします。
- 事業系一般廃棄物の収集・運搬を業者に依頼する場合は、函館清掃事業協同組合(0138-54-3565)にお問い合わせください。
- 事業系一般廃棄物のうち、空き缶の処理については、函館再生資源事業協同組合(0138-56-0100)または函館清掃事業協同組合にお問い合わせください。
- 産業廃棄物の処理を他人に委託する場合は、都道府県知事または政令市長の許可を受けた産業廃棄物処理業者に依頼してください。



事業系ごみの分別・処理の仕方はこちら

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014011300040/>



## 18 わかりやすい分別表示のごみ箱を用意する

○環境省：大規模イベントにおけるごみ分別ラベル作成ガイドンスより  
ピクトグラム の例 (抜粋)



紙ごみ  
Paper trash



紙コップ  
Paper cups



かん  
Cans



びん  
Bottles



プラスチック食器・トレイ  
Plastic trays



ペットボトル  
Plastic bottles



ペットボトルキャップ  
Plastic bottles caps



プラスチック  
Plastics



生ごみ・食品廃棄物  
Raw trash・Food waste



飲み残し  
Leftover drinks

環境省：大規模イベントにおけるごみ分別ラベル作成ガイドンスはこちら  
<https://www.env.go.jp/recycle/waste/event/guidance.html>



## 19 使い終わった紙類（コピー用紙，ダンボール，雑がみ等）や，残った印刷物は，きちんと分けて資源として出す

○紙類は分別し，資源回収業者へ排出しましょう。

資源回収業者はこちら

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014042500051/>



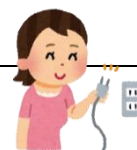
## 省資源・省エネルギーの推進

資源やエネルギーの使用量を抑制することは、地球温暖化防止への取組としても重要な事項です。イベント運営の全般にわたり、資源やエネルギーの有効活用や環境保全について考えましょう。

### 《チェックポイント》

**20** 電気・ガス・水の使用状況を確認し節約を心がけるほか、来場者へ節約の呼びかけを行う

○トイレ等に節電・節水を呼びかける貼り紙をしましょう。



**21** 展示物や看板、ステージ等の過度な照明・電飾・音響を避け、省エネルギーに努める

○使用していない部屋の照明や機器等の電源を切りましょう。  
○適切な照度を確保しつつ外光に応じて部分的に照明を消灯しましょう。



**22** 室内等で開催する場合、室温は冷房は28℃、暖房は20℃を目安に適正な温度管理を行う

○会場の空調を早い時間から無駄に稼働しないように注意しましょう。



### 環境部電気自動車の活用について

環境部電気自動車は地球温暖化対策のシンボルとして日常の業務で使用しています。この自動車の充電は、日乃出清掃工場のごみ焼却発電を利用しており、環境にやさしい電気を使用して走行しています。バッテリーから電力を供給することもできるため、消費電力の比較的少ない扇風機やスマートフォンなどの電源として利用できますので、イベントでの活用をご検討ください。

※詳細については、環境政策課（0138-85-8197）までお問い合わせください。



## 環境に配慮した交通手段



イベントには様々な交通手段を用いて、多くの人々が集まります。乗用車は、バスや市電と比べて1人を運ぶために多くのエネルギーを使うほか、渋滞の原因となることで、さらなるエネルギーを消費します。イベントを開催する際には、公共交通機関の活用やシャトルバスを運行するなど、交通による環境への負荷を減らしましょう。エネルギー消費を減らすことで温室効果ガスの発生量も削減できるので、地球温暖化防止にも大きくつながります。

### 《チェックポイント》

23 イベント周知の際に、公共交通機関や自転車、徒歩での来場を呼び掛ける

○公共交通機関を利用しやすいように時刻表や付近の案内図等を記載しましょう。

24 会場が公共交通機関でアクセスしにくい場合は、シャトルバスの運行等を考慮する

○シャトルバス等は次世代自動車を優先して調達しましょう。



25 出展者等は、可能な範囲で車の相乗りや公共交通機関を活用し、マイカー使用を控える



26 イベント周知の際に、エコドライブや相乗りを呼びかける

○出展者等も積極的にエコドライブを実践しましょう。



### ～エコドライブ10のすすめ～

- 1 自分の燃費を確認しよう
- 2 ふんわりアクセル「eスタート」
- 3 加減速の少ない運転を
- 4 早めにアクセルオフ
- 5 エアコンの使用は適切に
- 6 ムダなアイドリングはやめよう
- 7 渋滞を避け、余裕をもって出発
- 8 タイヤの空気圧のチェック
- 9 不要な荷物はおろそう
- 10 迷惑駐車はやめよう

エコドライブ10のすすめ

<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/ecodriver/point/>



## グリーン購入の推進

グリーン購入とは、購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを購入することです。印刷物や資材の調達にあたっては環境に配慮した製品を積極的に取り入れ、広範にわたるイベント関係者に環境への配慮を呼びかけましょう。

### 《チェックポイント》

27 購入の必要性を十分に考慮し、購入量を削減するなど、グリーン購入を実施する



例えば、スタッフジャンパーは次回以降や、他のイベントでも使えるようなデザインにし、再生材で作られた物を使用しましょう。



### 〈参考〉

グリーン購入については、市のホームページからも調べることができます。

【HPアドレス】 <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014021300290/>



28 看板、展示パネル等の仮設物、スタッフのユニフォーム等や食器等は、既存のものをリユースまたはレンタル・リースを活用する

29 ポスターやチラシ等の印刷物には、植物油インキ等の環境にやさしいインキや再生紙を使用する

○環境にやさしいインキや再生紙を使用している旨を文章やマークで表示し、環境に配慮していることを明示しましょう。



## 5 チェックリスト

計画段階と実施段階に分けてチェック欄を設けていますので、各項目の取組状況の確認に活用してください。

### エコイベントチェックリスト

～チェック欄記載例～	
〈記入の仕方〉※ 空欄がないようお願いします。	
【計画】 ○:実施予定 ×:該当するが実施できない -:該当しない	
【実施】 ○:実施できた △:一部は実施できた ×:実施できなかった -:該当しない	

イベント名			
<b>環境意識啓発の推進</b>		<b>計画</b>	<b>実施</b>
1	事前に出展(店)者等に環境配慮への理解と協力を得る		
2	イベント運営マニュアル等に環境配慮の内容を示し、関係者の環境配慮項目を具体的に決める		
3	参加者に環境に配慮したイベントであることを周知し、取組への理解と協力を呼びかける		
4	イベント開催を環境教育の場の一つとして活用する		
5	イベント後は会場周辺を清掃する		
<b>ごみの発生抑制とリサイクル</b>		<b>計画</b>	<b>実施</b>
6	ホームページ、SNSの活用、チラシ等の両面印刷により、印刷物の枚数を精査する		
7	事前にマイバック等の持参を呼びかける		
8	使い捨て容器・包装材の使用を削減する		
9	使用物品は繰り返し使えるものを使う		
10	スタッフ等の食事は、使い捨て容器を使用していない仕出し弁当等にする		
11	必要な分だけ食材を購入し、作りすぎに注意する		
12	食材を無駄なく利用する		
13	ハーフサイズ等の小盛メニューも提供する		
14	食べ残した料理は持ち帰りができるようにする		
15	余った食材はフードバンク等に提供する		
16	来場者に食べ切りを呼びかける		
17	ごみの種類やリサイクルを想定し、事前に収集運搬業者と相談のうえ、分別区分を決める		
18	わかりやすい分別表示のごみ箱を用意する		
19	使い終わった紙類(コピー用紙、ダンボール、雑がみ等)や、残った印刷物は資源として出す		

(次ページへ続く)

省資源・省エネルギーの推進		計画	実施
20	電気・ガス・水の使用状況を確認し節約を心がけるほか、来場者へ節約の呼びかけを行う		
21	展示物や看板、ステージ等の過度な照明・電飾・音響を避け、省エネルギーに努める		
22	室内等で開催する場合、室温は冷房は28℃、暖房は20℃を目安に適正な温度管理を行う		
環境に配慮した交通手段		計画	実施
23	イベント周知の際に、公共交通機関や自転車、徒歩での来場を呼び掛ける		
24	会場が公共交通機関でアクセスしにくい場合は、シャトルバスの運行等を考慮する		
25	出展者等は、可能な範囲で車の相乗りや公共交通機関を活用し、マイカー使用を控える		
26	イベント周知の際に、エコドライブや相乗りを呼びかける		
グリーン購入の推進		計画	実施
27	購入の必要性を十分に考慮し、購入量を削減するなど、グリーン購入を実施する		
28	看板等の仮設物や食器等は、既存のものをリユースまたはレンタル・リースを活用する		
29	ポスター等の印刷物には、植物油インキ等の環境にやさしいインキや再生紙を使用する		
環境配慮事項の取組率		計画	実施
「○」の数の合計(A)			
「○+△+×」の数の合計(△は実施のみ)(B)			
取組率(A÷B×100)(%)			
<p>&lt;反省点および今後の留意点等&gt;</p> <p>できなかった事項について、反省点や今後の留意点を記入し、今後のイベントでの実施を目指しましょう。</p>			

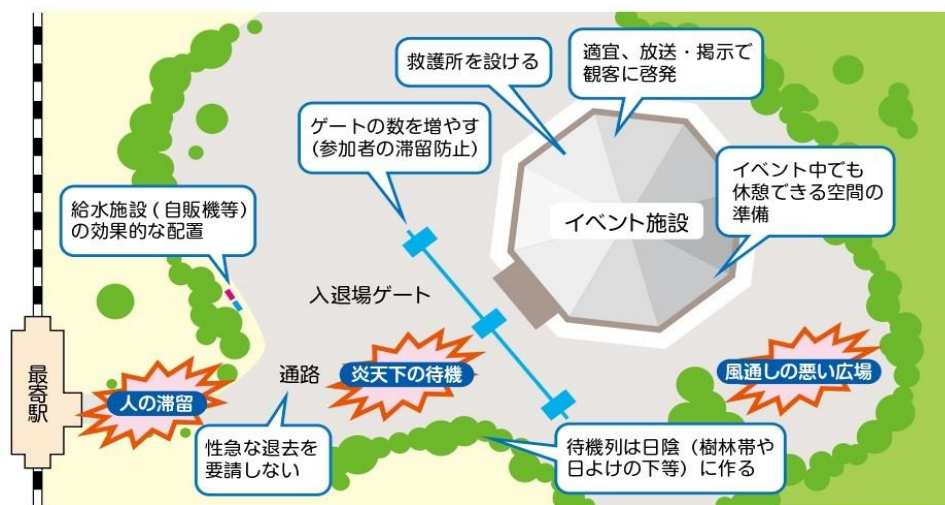
## 6 参考情報

### 夏季のイベントにおける熱中症対策

近年、気候変動の影響等もあり、熱中症疑いによる市内の救急搬送人員数が増加傾向にあるなど、夏の暑さ対策は大きな課題となっています。このことから、会場の実態に応じた効果的な熱中症対策に取り組んでいく必要があります。

### 熱中症 対策と緊急時の要点

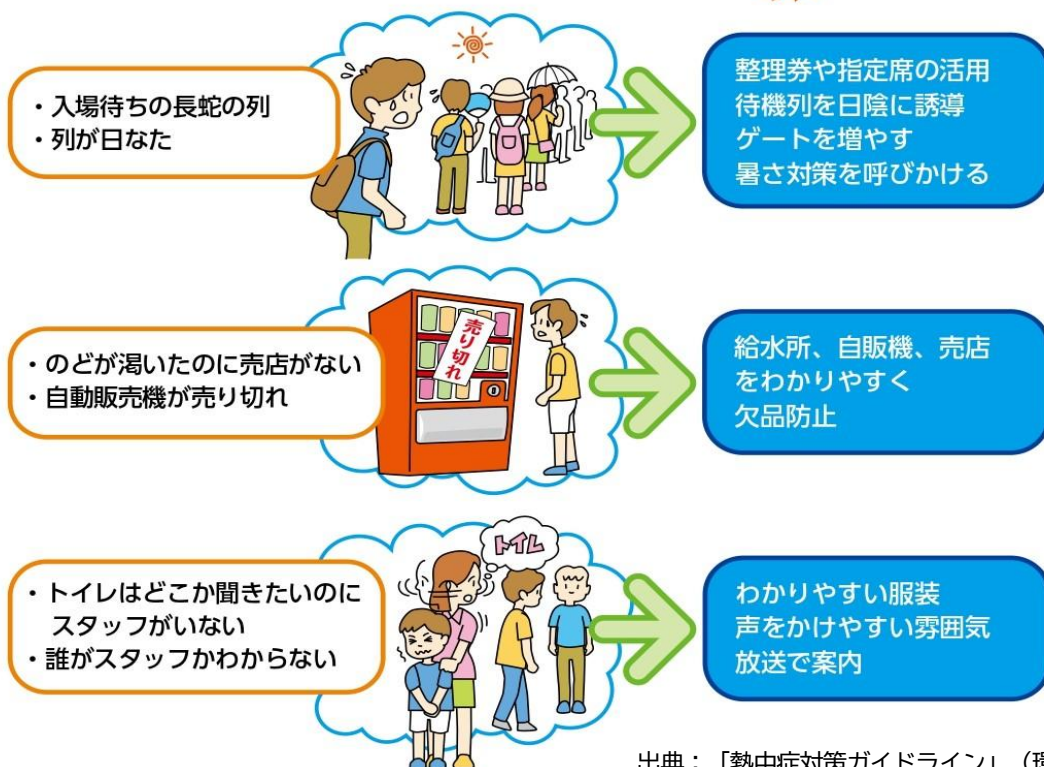
### 夏季のイベントにおける熱中症対策



イベント会場における暑熱環境の緩和



注意が必要な箇所



出典：「熱中症対策ガイドライン」(環境省)

# 熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。落ち着いて、状況を確認してから対処しましょう。最初の措置が肝心です。

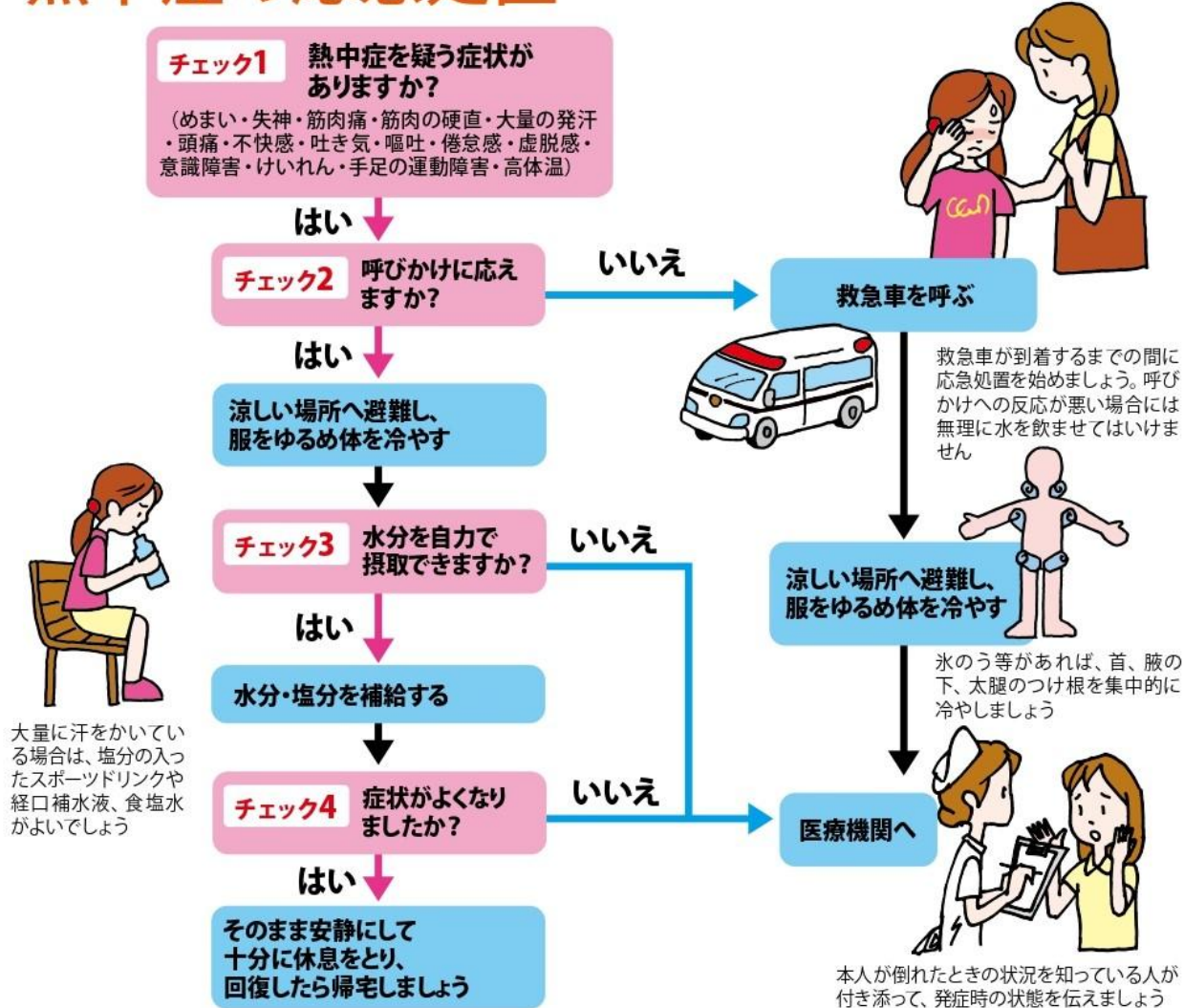


図3-10 熱中症が疑われる緊急時の応急措置

出典：「熱中症対策ガイドライン」（環境省）

○環境省熱中症予防情報サイト内「夏季のイベントにおける熱中症ガイドライン」等を事前に確認しましょう。

熱中症予防情報サイトはこちら

[https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness\\_gline.php](https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_gline.php)



熱中症対策ガイドラインはこちら

[https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/gline/heatillness\\_guideline\\_full.pdf](https://www.wbgt.env.go.jp/pdf/gline/heatillness_guideline_full.pdf)



熱中症環境保健マニュアルはこちら

[https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness\\_manual.php](https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php)







函館市環境部環境政策課

〒040 - 0034 函館市大森町 21 - 12

TEL 0138 - 85 - 8197

E-mail [kankyoh-seisaku@city.hakodate.hokkaido.jp](mailto:kankyoh-seisaku@city.hakodate.hokkaido.jp)

ホームページにも掲載しております。

<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014012700436/>

